

# 町報

特集

発行所

岐阜県加茂郡川辺町

編集

川辺町役場 総務課

印刷

川 辺 印 刷

昭和43年7月15日発行



川辺町の中心部をみた航空写真

(とにかく立つときがあると思います。また保存しておいてください。また)

あなたの声を  
明日への計画に  
反映させよう！！

私たちが住みよいマイホームづくりを始めようとするとき、まず考えるのは、その用地の選択です。

職場と学校への便利がよく、生活必需品を求め易く、電気、電話を考え出来れば上下水道が完備している土地を探すことでしょう。

そのあと大工さん、左官さんを選び建築のための資金の調達を考え家屋が出来あがれば庭に芝を植えベンキの色も鮮かな垣根をつくる。勿論このホームづくりは、むだな投資をはぶき合理的なものにしようとしていることは今までありません。そのため専門の設計士に設計を依頼し、同時に家族ひとりひとりの希望を聞き、さきに家を作った人々の意見を聞き、長い将来のわが家の家族の変化を考えることでしょう。

このように自分の家をつくるといふ一つの事業でも他のいくつかの事業をつみ重ねてその解決をはからねばなりません。

明るく、豊かで、住みよい川辺町をつくりあけるのもこれと同じ努力と計画が必要です。長期の事業を考え、その財源を検討し全部の事業を総合的に解決しようとするのが「川辺町総合振興計画」策定の意義と考え、町では、この計画づくりを始めています。

この計画は、町民が総参加でつくりあげてこそ生きた計画です。あなたの声を明日へのこの計画に反映させましょう。

# 明日への町づくりの計画を

## みんなで町づくりの計画を

日本の開発立法真空地帯としてとり残されて来た中部地域に、昭和四十一年六月中旬開発整備法が成立して以来、どの市町村でも積極的に開発行政の整備と推進を行っています。これに最近の高い経済の成長と交通機関の発達、通信手段の普及などが、住民のみなさんの経済、生活の範囲の拡大につながりこれにともなって、行政にたいする要望も高度で広いものになっています。

このような社会の変化と住民の行政のすべての分野でしっかりと見通しにたった計画が必要なことは、いうまでもないことですが川辺町でも議会の強い協力を得て「明日の活き活きと躍動する川辺町」づくりをめざして「川辺町総合振興計画」の策定をいそいでいます。

この計画は、従来の計画がともすれば住民不在の計画となりがちでとがく計画だれに終っていたことを反省し、みなさんの意志を充分反映した、町民総参加の計画にしたいと準備をしています。勿論、しなければならない事業が山積している川辺町で、行政投資の限界は、年間約三千万円前後と推計されますが、この行政投資額がすべての、住民福祉の向上に充分の資金とは申せません。限られた財源のなかで、資金の

効果的な利用を計り、重点的に事業を進めるため、この計画が町の今後の予算編成の柱として組立てられ、毎年度の事業となつて執行されていかなければなりません。「明るく、豊かで、住みよい町」をつくりあけることは町民すべてのねがいです。

この計画が、このよう、みなさんの意志を反映し、今後の大きなねがいに近づいていくためのものであるだけに、町民全部のみなさんの限りない協力が、必要な明るい郷土が生れるものなのであります。明るい町は、皆んなで助け合って、自分たちの周囲だけでもよりよくしようとする考えが、大きな力となつて、はじめて本当に近づいていくためのものになります。明るい町は、皆んなで働き、いろいろの立場で考え方の異なる人々の力の結集がこの計画を実現へ結びつける道なのです。

## 川辺町振興計画策定にともなう町章図案と論文の募集

### ▼町章図案募集要項

1 趣旨 明るく、豊かで、住みよい町づくりを推進し川辺町の象徴となる町章の制定を通じて郷土を愛する意識の高揚をはかり今後の川辺町発展に寄与するため。

2 応募点数 1人2点以内とする

3 応募方法

- (1) 用紙は画用紙（縦15×横10cm）を使用し1枚1点とする。
- (2) 使用の色種は黒1色とする。
- (3) 裏面に住所氏名職業年令を記入のこと。
- (4) 作品説明書（100字以内）を作品ごとに添付のこと。
- (5) 作品は折りたまない。

4 締切り日 昭和43年8月31日（当日消印有効）

5 送り先 岐阜県加茂郡川辺町役場教育委員会内  
町章図案募集係

6 決定方法 町章審査会にて審査決定をする。

7 入選発表 昭和43年10月23日

8 賞金 入選 5万円 1点  
佳作 各5千円 2点

ただし入選作品としてふさわしいものないときは採用しない。

9 その他

- (1) 応募作品は未発表のものに限る。
- (2) 応募作品は一切返却しない。
- (3) 入選作品の版権は川辺町に帰属する。
- (4) 入選作品を町章として採用する場合図案の一部を修正することがある。

### ▼川辺町振興計画論文募集要項

1 趣旨 町民所得と社会資産の増加をはかり明るく、豊かで住みよい町づくりのために川辺町振興計画を町民総参加の計画とし今後の川辺町発展に資するため。

2 応募資格

川辺町に住所又は勤務地を有する者に限る。

3 募集方法

- (1) 第1部一般及び大学生 第2部高校及び中学生の二部に分類する。
- (2) 第1部は8000字以内とし400字詰原稿用紙使用のこと
- (3) 第2部は800字以上とし400字詰原稿用紙使用のこと

3 内容 明るく豊かで住みよい町づくりのための建設的な提案又は将来あるべき川辺町の姿を内容としたもの

4 締切り日 昭和43年8月31日（当日消印有効）

5 送り先 川辺町役場企画室

6 選考方法 計画審議会にて審査決定する

7 入選発表 昭和43年10月23日

8 賞金 第1部 入選 2万円 1編

佳作 5千円 2編

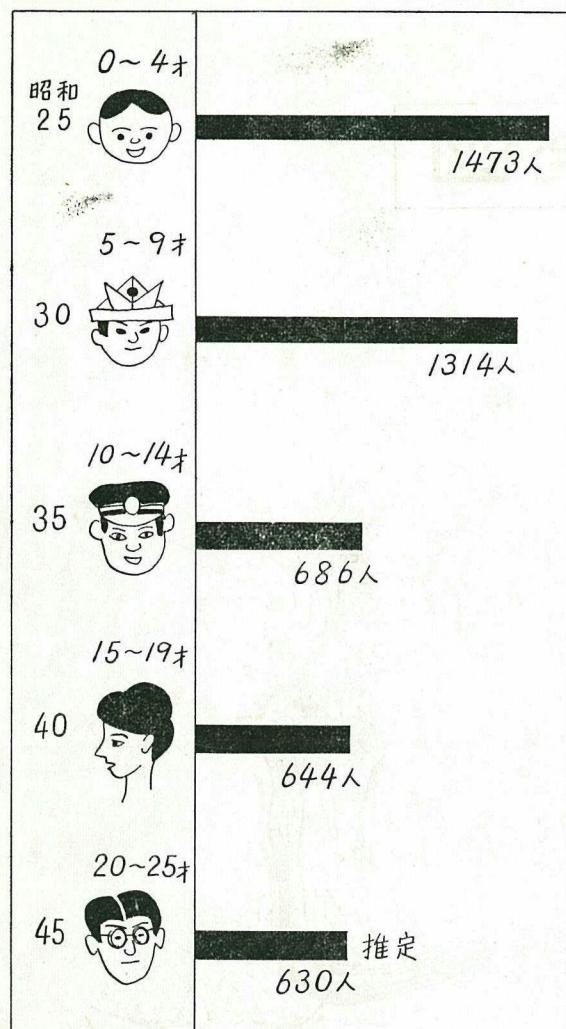
第2部 入選 5千円相当品 1編

佳作 2千円相当品 2編

9 その他

- (1) 応募作品は返却しない。
- (2) 入選論文は発表期日以前に町報等に掲載することがある。

# 統計からみた かわべの姿



△産業 人口の部分で説明します。たとえば、川辺町の基礎産業である農業への就業構造は、昭和二十五年当時と比べると二分の一に減少しています。しかし農業所得は高品質化され、農産物の価格の上昇と生産物の高品質化にさゝえられて増加しています。今後この農業の生産性の向上による所得の増加を計る努力と方策が急務となります。

電話

(十一人に一台)  
(一・五軒に一箇)

△交通・通信 最近の交通、通信手段の発達は、目覚しいものがありますが、川辺町の自動車、電話等の保有数は次のとおりです。

自動車

八六八台

(十一人に一台)  
(一・五軒に一箇)

山で一番高い山は納古山  
▽位置△ 川辺町は、東経一三七度北緯三五度岐阜県のほぼ中央部に位置しています。海拔は平担部で一〇〇メートル前後、鹿塩春日神社附近が一三八メートルとなっています。

海拔といえば、町内で一番高いのが納古山の六三二・九メートル美しい山容の米田富士は二八〇メートル、下麻生の遠見山が二六九メートル、鬼飛山は二九〇メートルです。

こうしてみると、川辺町は納古山系と米田側の権現山系にすっぽりと抱かれた飛騨山地と美濃平野との接点、山ふところの町といえます。この変化に富んだ地形が飛騨木曽国定公園の一部として美しい飛水郷をつくりあげているといえます。

▽面積△ 町の総面積は、四〇。七〇平方キロ、その面積の七二%が山林原野で占められています。国道の改良などによつて、都市の近接町村になりつつあります。面積の統計だけからいえば、まだまだ農山村といわなければなりません。地目別には、次のとおりです

(単位 平方キロ)

年	面積
昭和二十五年	平均二八才
昭和三十年	平均三〇才
昭和三十五年	平均三二才
昭和四十年	平均三三才
昭和四十五年	平均三三才

以上の表をもとにくわしく追求するためグラフが左のグラフです。このグラフは、昭和二十五年当

りと抱かれた飛騨山地と美濃平野との接点、山ふところの町といえます。この変化に富んだ地形が飛騨木曽国定公園の一部として美しい飛水郷をつくりあげているといえます。

▽人口△ 川辺町の人口は、今年の四月一日現在で、九六二三人です。昭和三十年の国勢調査人口が一〇、一九九人でしたので、この十年あまりで約五百人が少くなっています。次に表は、町内の在住人口の平均年令をあらわしています。

△農業△ とくに川辺町の基礎産業である農業の就業人口が昭和二十五年の三二六八人から昭和四十年には、一六六一人と低下していることは注目すべき統計数といわなければなりません。

	農業の変化		計
	男	女	
昭和25年調査	1,726	1,542	3,268
昭和30年調査	1,324	1,388	2,712
昭和35年調査	1,007	1,236	2,243
昭和40年調査	739	922	1,661
昭和45年推計	503	822	1,325

田畠  
山林  
その他

心もとない若人の流出

時〇才から五才までの赤ちゃんが五才たつたのちどのような数になるかをしめたもので、中学、高校を卒業した若人の半数以上が町外へ流出していることをあらわしています。

人口の流出は町の産業、経済に大きな影響を及ぼします。

このことから一日も早く川辺町の産業、経済を再検とうし、「伸びゆく川辺の町づくり」の計画がつくられなければならないことが理解されます。

△就労△ とくに川辺町の基礎産業である農業の就業人口が昭和二十五年の三二六八人から昭和四十年には、一六六一人と低下していることは注目すべき統計数といわなければなりません。

一方川辺町が誘致した工場は、六工場でその生産額は年々増加し従来の各工場とともにその業績を向上させつつあります。昭和四十年の工業生産額の推計は約二三億円と考えられます。

この工場の困惑の種が労働力の不足であることはいうまでもありません。

△交通・通信 最近の交通、通信手段の発達は、目覚しいものがありますが、川辺町の自動車、電話等の保有数は次のとおりです。

# 川辺町全図

七宗村



美濃加茂市

八百津町

1 : 50,000